

< 特別寄稿 >

長崎国際大学薬学部
正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

長崎国際大学薬学部 正山征洋先生

第2回

麦角（バツカク）

小麦に何か黒い物がくっついていますが、これが麦角（バツカク）と呼ばれる一種のキノコです



麦角の研究が進められエルゴメトリン、エルゴタミン等の複雑な構造を持つアルカロイドが単離・構造決定され、その薬理活性が明らかにされました。

この結果上述の壊死を起こす風土病は麦角が小麦に交じって食された結果引き起こされてきたことが明らかになりました。

即ち上述のアルカロイドは末梢血管を強く収縮する作用を持っていました。現在ではエルゴメトリン、エルゴタミンは陣痛促進剤や片頭痛薬として用いられています。

又、分解物として見出だされたリゼルギン酸からLSDが発見され、強力な麻薬としての不法使用が大きな社会問題を引き起こしていることは周知のことです。

Pierre Bulliardによる
1700代後半の作品です。